

2021年2月9日付け日本経済新聞朝刊記事「国立大重症病床コロナ活用半ば」アンケート 設問と結果

・千葉大学病院の回答結果

本アンケート調査では下記のような設問が設定されており、別紙1でも取り組みを紹介した千葉大学病院の回答は下記の通りです（この他にも記事に反映されていない設問がありました。）

Q1. 貴院の総病床数や届け出病床数をご記入ください。（本院のみ。研究所付属などは対象外）

総病床数	計	850	床
ICU(特定集中治療室管理料)	計	18	床
HCU(ハイケアユニット入院医療管理料)	計	46	床
ER(救命救急入院料)	計	8	床

Q2. 回答時点（または直近の都道府県への報告時点）で新型コロナ感染者（疑似症含む。以下同様）を受け入れる即応病床は何床ありますか。うち重症者向け病床（都道府県に報告の定義）は何床ですか。

即応病床数 47 床（うち重症者むけ病床） 8 床 （時点：1月21日）

この回答結果について、記事では、次のとおり整理されています。

大学名	重症者病床数 (うちICU)	新型コロナ向け	
		重症者病床数	確保率 (%)
千葉大	72 (18)	8	11

ご覧のとおり、新型コロナ向け重症者病床数の確保率を算出する際の分母として、Q1で回答したICU、HCU、ERの合計数を用い、一方で分子にはQ2で回答した即応病床数の内数としての重症者向け病床を用いていますが、設問から明らかなように、Q1で回答した72床とQ2で回答した8床は、直接的には結びつかないように思えます。

なお、仮にQ2の設問に沿って確保率を算出した場合、当院の確保率は17%となります。

以上